

「CIO/CISO 候補者のためのセキュリティマネジメント講座」構想の発表

当学会の創立 25 周年記念事業の一環として取りまとめられた

「理論と実務を統合するセキュリティマネジメント 次代を担う CIO/CISO の育成」

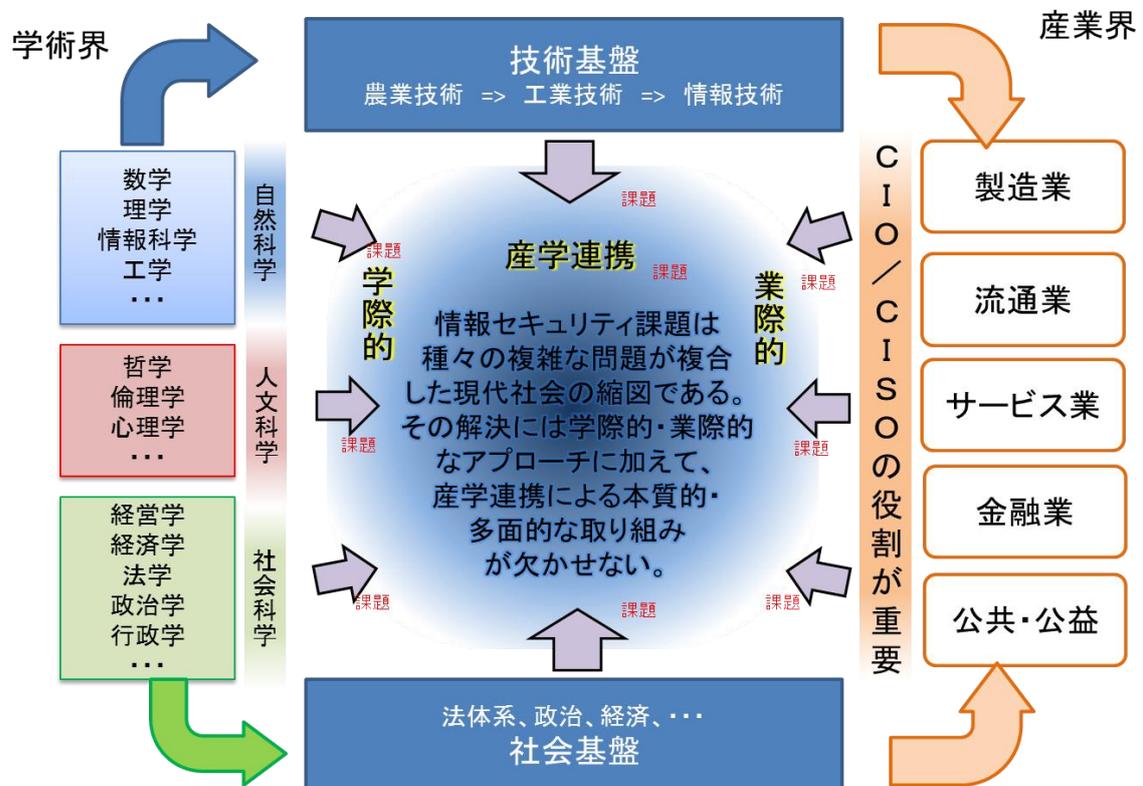
と題する提言の中で示された問題認識に、当学会として具体的に取り組む第一弾として、「CIO/CISO 候補者のためのセキュリティマネジメント講座」の開催構想を発表します。

「CIO/CISO 候補者のためのセキュリティマネジメント講座」は、

- 0) セキュリティマネジメントの重要性を理解し取り組みの視点を獲得
  - 1) 学問的な知見や手法を実務課題に適用した事例を知る
  - 2) 学問領域の知見と実務領域への応用可能性を理解する
  - 3) 具体例をもとに今後の取り組み方を計画できる
- などに活用いただけることを目的とします。

CIO/CISO の役割は、複雑化する環境の中でますます重要になっています。

現代の情報セキュリティ課題の複雑性とCIO/CISOの役割



このような複雑な環境において、難しい経営判断を迫られた時に、CIO/CISOは何に基づいて意思決定をすればよいのでしょうか？

- 事業戦略との整合性？
- 組織文化との整合性？
- 経済性？
- リスクと投資のバランス？
- 利用者の安心感？
- 顧客要求への対応？
- コンプライアンス？
- ガバナンス強化？
- 技術の成熟度？
- 安定運用？
- 環境変化への対応？
- 変革への抵抗？
- 人材育成？
- 資源確保？
- ...

2011年7月8日に発表された、政府の情報セキュリティ政策会議の資料「情報セキュリティ人材育成プログラム」では、CIO/CISOの役割について以下のように解説しています。『CIO, CISOは、情報セキュリティに関する最終的な意思決定権限を持つものであり、組織の情報リスクの概況把握と許容リスクレベルの決定、情報セキュリティ対策のためのリソース調達と割り当て、情報セキュリティの管理状況のモニタリングと改善指示などを行う。情報セキュリティに関する問題は、複数の事業領域にわたり、業務の利便性、効率性の阻害要因になることもしばしばある。今後ますます、企業経営が複雑化する中で、組織の全体最適化の視点からの情報セキュリティに関する部門横断的な戦略策定、意思決定、実務執行を行うためには、CIO, CISOを組織内できちんと位置付けていくことが重要である。』

変化の激しい環境下では、CIO/CISOは困難な意思決定にあたって、過去の事例から、あるいは他の誰かから解を得ることは難しく、幅広い考慮事項を踏まえて自ら探究し、ベストあるいはベターな結論を得る能力を持たなければなりません。

そのためには、セキュリティマネジメントに関する最適解を探求するための地図と道具類を持たなければなりません。このヒントを得られるのが、本講座です。

情報セキュリティについての教育や人材育成を実施する機関は、大学や大学院、あるいはISSスクエアや産学連携などのプログラムがあります。実際の教育や育成の実施はそのような機関

育成対象	提言・方向付け	育成実施

にゆだねるとし、当学会がこの課題にもっとも貢献できるのは、これからの取り組みに関しての提言あるいは提案をし、方向づけに寄与することであると考えます。

冒頭紹介した提言「理論と実務を統合するセキュリティマネジメント 次代を担う CIO/CISO の育成」で、当学会はこの提言の実現に向けて中心的な役割を果たす覚悟であり、具体的には以下の3機能を果たすとまとめています。

- ① 起点機能・・・産や官と学の間を取り持つ仲介機能、産や官からの連携要請を学に仲介する。
- ② 交流機能・・・CIO/CISO 並びにその候補者が互いに交流し、学とも出会い、セキュリティマネジメントのコミュニティに参加するとともに、組織内価値観にとらわれずに客観的な価値観でものを見る心構えなどを養うことができる。研究会活動や全国大会、学術講演会などの場を活用する。
- ③ 集積機能・・・産官学連携の成果を研究論文や研究ノートとして発表していただく。さらにはその前後の、論文にまでは至っていない課題検討や本質解の現場への適用経験なども集積する

本発表の「CIO/CISO 候補者のためのセキュリティマネジメント講座」構想は、この中の②交流機能に位置付けられるものです。

この講座の具体的な内容やスケジュール、講師陣などの詳細はこれから検討を重ね、本年秋に開催する本学会の学術講演会で発表する予定です。どうぞご期待ください。